いずみさの教育 NOW

問合先
学校教育課
☎493-2091

「外国にルーツがある児童生徒に寄り添うために」

府による「日本語指導が必要な児童生徒等在籍状況調査（政令市・夜間学級を除く）」では、令和6年度の大阪府（政令市・夜間学級を除く）の日本語指導が必要な児童生徒数は2,634人でした。令和元年度は、1,763人であったことからこの5年間で約900人増加しています。府の子どもの数は年々減少している一方、日本語指導が必要な児童生徒は年々増加し、今後もより一層の増加が見込まれます。本市でも同様の傾向にあり「令和7年度日本語指導が必要な児童生徒数」は79人。昨年度の同時期における児童生徒数は65人で、日本語指導が必要な児童生徒数は年々増加しています。

日本語指導が必要な児童生徒は不安をかかえていることが少なくありません。「急な渡日」「文化のちがい」「日本での学習」「言語のちがいによる教職員やまわりの児童生徒とのコミュニケーション」など、不安の要因は多岐にわたります。その不安に寄り添うため、本市ではこれまでも、通訳担当者の配置や適切な日本語指導の実施など、きめ細やかな支援の充実を進めてきました。今後はその支援を引き継いでいくとともに、ICT機器を活用するなどより一層の支援の充実を図り、日本語指導が必要な児童生徒を含む、すべての子どもたちが安心して学ぶことができる学校づくりをすすめます。

また、日本語指導が必要な児童生徒など、外国にルーツがある子どもとの出会いは、ほかの子どもたちにとって大きな心の成長のきっかけになります。

これからも本市小・中学校では、子どもたちが多様な文化に触れ、それぞれのちがいを豊かさととらえ、認め合う「多文化共生」の理念に基づく実践をすすめ、子どもたちに豊かな人権感覚を育んでいきます。

学校園紹介

多くの人たちに見守られながら ～第一小学校～

第一小学校では、多くの地域のみなさんの協力を得ながら、様々な学校教育活動を行っています。

そのうちの一つが、農家さんの畑を借りてのおイモの収穫体験です。春には4年生が、3年生の時に植えたジャガイモを掘ります。秋には2年生が、春に自分たちが植えたサツマイモを掘ります。大きなおイモを掘り出すと、子どもたちはとても楽しそうでした。

5年生はマーブルビーチで地引網を体験しました。泉佐野漁協の人にご協力いただき、今年はまず、ヒラメの放流をしました。そのあとみんなで地引網を引っ張り、取れたての生きた魚と触れ合う貴重な体験ができました。

2年生は町たんけんで一小校区内のいろいろな場所をめぐるのですが、近くのつばさ通り商店街のお店も見学させていただきました。

第一小学校の子どもたちは多くの人に見守られながら健やかに成長しています。

情報活用能力をはぐくむモデル校 ～中央小学校～

今年度本校は「情報活用能力をはぐくむモデル校」に指定されています。昨年度の取組を引き継いだうえで、より発展的に子どもたちの学力の向上を目指すものです。国の教育指針で学習指導要領に記載されている「教育課程の編成及び実施」の中で「学習の基盤となる資質･能力」として「…

児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力などの基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう…」とあります。子どもたちに、集めた情報を整理分析まとめ発信していく力がはぐくまれるよう取組を進めます。

これからも、中央小学校に関わる全ての大人たちが、子どもたちと一緒に努力していきます。